エッセイ

「自営業者の挑戦：努力と謙虚さで道を切り開く」

㈱セカンドハンド／エコマスター加古川　代表取締役　窪田（くぼた）　健二（けんじ）

住　所:　加古川市別府町別府703-1
ＴＥＬ:　079-435-7359
営業内容:　中古品、不用品の買取・販売

私は40歳の自営業者。自営業者には皆さんどんなイメージをお持ちでしょう?

21歳の冬、私はとある自営業者の人に憧れて、自分で商売することを決意し、昼間は10時間、夜中は8時間、一日18時間のアルバイトで資金を貯め（最後は血尿が出て退職）、22歳の秋に今まで働いていた職場を辞めました。その後、自営業としてガレージ（月８千円）と中古の軽トラック（15万円）を元手に、引っ越しなどで不用になった家具や家電などの買取をして、インターネットやお店の卸し業者に販売する仕事を始めました。

最初の２か月間は月収５万円。しかし、自営業への憧れは強く、なんとか体力と気力で頑張って、少しずつ仕事が増えていきました。また当時はホームページで集客することが主流ではなかったのですが、10個を超えるホームページサイトを自分で作成し、運営していました。たちまち仕事は上手く回りはじめ、トラックも新車で購入し、「俺は才能がある」と自惚れていたのを覚えています。

それから３年が経つ頃、生活は乱れ深夜まで遊び、朝起きるのも11時くらい、仕事の電話も気分次第で出たり出なかったり…。すっかりやる気もなくなり、なんとなく生きて仕事をしている毎日になっていました。当然仕事は激減して、焦り始めた頃にはもう遅く、26歳の頃には、ついには貯金も無くなり、仕事が少ない時は家の電気が止まってしまったりと荒れた生活を送っていました。

そこで自営業は大変だから、生活が安定し、楽であろうサラリーマンへの転職を決意。某企業のフレックス社員として働き始めました。ところが、そこで待っていたのはサラリーマンの厳しさや人間関係、やりがいの無さ（これは自分の問題ですが）に落胆し、１年経つ頃にはすっかり嫌になり、元の自営業に戻っていました。

自営業からサラリーマンを経験し、そこから自営業に戻った景色は一変し、もう最後のチャンスとばかりに、がむしゃらに真面目に働きました。

自営業である今は「すごいですね」と言われる事もありますが、同じかそれ以上にサラリーマンが大変だと心底知ることができました。そして40歳にして分かった事は「自惚れず一生懸命にやることが大事」という事。自惚れは失敗や挫折を招き、成長の機会を失うという事。一生懸命に取り組むことで、結果を出すだけでなく、過程自体が自分を強くし、経験として蓄積され自信になるという事。努力は成果を保証するものではありませんが、努力しないで成功することはほとんどないという事。

「成功と成長を追い求めるなら、謙虚さを盾に、努力を剣として進み続けよ。」

成功や成長を追求する上で基本的な姿勢であり、その道は困難であることが多いですが、謙虚さと努力を心に抱き、その道を切り開くことができると信じ、これからも人生を歩んでいきたいと思う。